

愛知県教育委員会教育長 様

2020年9月18日

高野連主催（日本高等学校野球連盟）主催の試合に、女子選手が出場できるように、愛知県教育委員会は取り組む、及び働きかけをすることを求める請願

住所

請願人 行政を考える住民の会
事務局 宮崎邦彦

1 請願の経過と趣旨

1 「高野連主催の女子選手には出場機会が与えられない。高野連主催の大会、女子の試合出場を認めていない（資料1）。ということである。この報道は、高野連と、強いつながりのあるといえる、朝日新聞の報道であることを認識してもらいた。資料の2, 3も同じ朝日新聞であること、も注目してもらいたい。

報道（資料1）は、軟式野球部に初めて女子の主将が誕生。

女子の軟式野球部員、県の高校体育連盟主催は、女子も男子に交じり試合に出られる。とのことである。

主催が異なると、女子選手が、出場できたり、できなかつたり。ということである。選手の女子生徒が、私立、県立高校、市立高校等関係なく、出場できないと理解している。高校全体にかかわる問題であるということである。

2 高野連主催の試合が、最初から、女子選手を、出場させないような規則等があることが問題である。これから軟式野球を目指す生徒も含め、本件のような機会を与えない対応は、全ての女性に対する差別であるといっても過言ではないということである。

日本学生野球憲章、総則、第2条⑤・・・いかなる形の差別も認めない。とある。

（今回の請願に関して）規則、規約を盾に、一方的ともいえる、出場できないとされること、になることは、当事者にとっては、まったく何の責任もないことである。いかなる形でも、出場ができる形になることが早急に求められる。

3 朝日新聞社「ジェンダー平等宣言」を取り上げた、メディア私評（資料2）がある。「ジェンダー平等はメディアが範を示せ」の見出しは、まさに、教育委員会も問われていることでもあるといえる。

具体的に提起されている問題「女子選手の出場できない問題」は、問題提起

をしてくれた高校生へ、教育委員会が、これまで、これからの高校生に、答える番である。

4 部活動において、女子部員、選手は、

「チームのため」沈黙を強いられる性被害（資料3）スポーツ界の構造的な問題が浮び上がる。ということが記載されている。女子選手は、過酷な環境にいるということか、もしくは、スポーツ界の構造的問題が、まだ、解決されていないということなのか具体的問題を、明らかにして取り組んでいくことが求められているということである。

5 部活動における、差別（なくす）克服、ジェンダー平等、のために、具体的問題事例について、改善等のため、取り組んでもらいたいということを求めるために、請願に及びました。

私立高校生の問題、であるというように問題をすりかえないでもらいた。高校生、全体の問題であると受け止めて取り組んでもらいたい。

女子生徒が、問題を抱えているとしたら、性的少数であるLGBTQの人たちの声、及び男子生徒の声でもあるということである。

2 請願事項

- 1 高野連主催の試合、女子選手の出場を認めるように働きかけること。
- 2 高野連の女子選手の出場を認めないとする、規約、規則は早急に、なくすことを働きかけること。
- 3 学校教育における「スポーツ」においては、差別（と問題になること）をなくすための見直し等を、早急にスタートすること。

添付資料

資料1 2020年9月9日（夕刊）朝日新聞

資料2 2020年9月11日 朝日新聞

資料3 2020年9月12日 朝日新聞

口頭意見陳述希望